

これまでの歩み、これからの歩み

村尾 采音

二十歳を迎えるにあたって、二十年間を振り返ってみると、好きな事や打ち込めるものに出会い、自分らしく歩むことのできたかけがえのない日々でした。

特に、空手との出会いが今の私を創り上げたといっても過言ではありません。小学校四年生の秋、鳥取県立武道館で行われた空手の体験教室に参加してから約十年、私は空手を通して、「自分と向き合う力」を身につけてきました。私が行っていた形競技は、仮想の敵に対する攻撃技と防御技を一連の流れとして組み合わせた「演武」で、その美しさや正確さを競います。そのため日々の練習では、力強く鋭い技を出すために基礎的なトレーニングで体づくりをしたり、美しく正確な形にするために何時間も鏡と向き合ったりして、一つ一つの技に磨きをかけていきました。練習は苦しいことも多かったですが、自分に打ち勝つことができた時、自分の中で大きな自信となりました。また、共に練習してくれる仲間たちや指導者の方々との出会いから、「人とのつながりの大切さ」を学びました。高校時代は、空手と学業との両立の難しさを感じることがありましたが、仲間と大変さを分かち合い、励まし合えたことで、ずっと空手が好きなままの自分であることができました。指導者の方々は私の年齢に応じた役割を与えてくださり、一人の人間としても成長させてもらいました。空手

を通して出会った人たちとのつながりがなければ、ここまで空手を好きでいたり、打ち込んだりすることはできなかったと思います。

また現在、私は大学で看護について学んでいます。専門的な知識に面白さを感じる一方で、複雑で膨大な量の学習内容に頭を抱えることも度々あります。しかし、これまで身につけてきた「自分と向き合う力」のおかげで、授業や実習での学びを振り返ったり、自分を客観的に見つめ直したりすることができ、よりよい看護実践について考え、行動しています。また、実習で仲間と教え合ったり、支え合ったりしながら学ぶ中で、「人とのつながりの大切さ」を改めて実感しています。悩むこともあります。共に関心ある事のできる仲間の存在に助けられ、日々楽しく学んでいます。

私はこれから、看護に携わる者として、そして一人の人間として、自分の芯を強く持ちながらも、人に優しく寄り添える大人になりたいと思っています。この理想に近づくために、これまでの二十年間で身につけてきたことを原動力にして、様々なことに挑戦し、自分に磨きをかけていきたいです。そして、二十年間私を支えてくださった全ての方々への感謝を胸に、これからは自分が誰かを支えられる大人になれるよう、自身をもつて一歩を踏み出していきます。